

千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会

福祉教育部会報

福祉教育充実に向けて

千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会長 関口 美栄子
(千葉県立松戸向陽高等学校長)



千葉県の高齢化のスピードは全国2位で、今年には4人に1人が高齢者になるといわれており、当然のことながらこれに見合う福祉人材の確保が喫緊の課題となっています。この課題に対して、県では平成20年に「千葉県福祉人材確保・定着対策本部」を設置、平成26年には、県としての施策の基本的な方向性を示す「千葉県福祉人材確保・定着推進方針」を策定しました。この中の方針に基づき、福祉教育推進校の指定、福祉教育拠点校の設置、福祉関連のコース・系列等の設置が進められてきています。今年度、県立長狭高等学校に医療・福祉コースが設置され、地元の亀田総合病院と連携した授業「医療と福祉」が開講されました。また、来年度福祉コースを開設する県立小見川高等学校では、地域の福祉施設や大学・専門学校等と連携した「福祉コース推進連絡協議会」を組織し、平成29年度福祉コースを開設する県立佐倉西高等学校ではその下地づくりを行うなど着々とその準備が進められています。

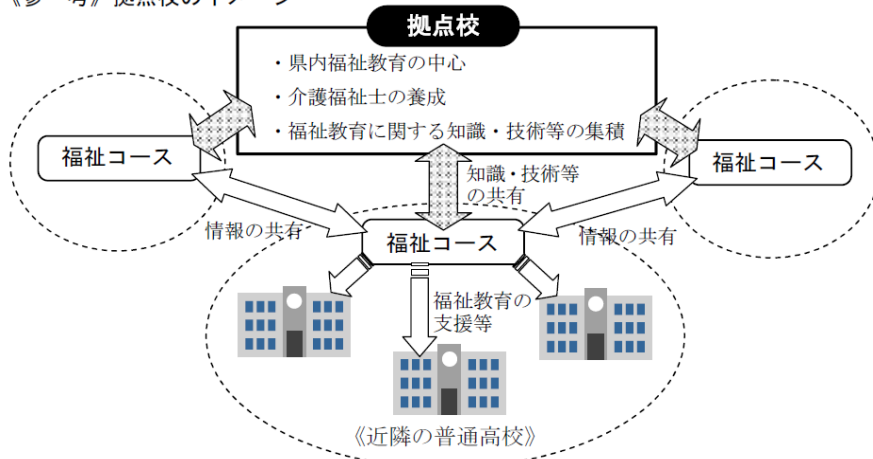
一方、他の高校生の状況をみると、県内福祉の現状や今後の状況についてや、「福祉」とはどのようなことなのか、自分たちとどのように関係してくるのかを考えている生徒は少なく、福祉というと介護というイメージが強く、自分にはあまり関係ないと思っていたり、まだまだ自分には必要ないと思っている生徒が多いのが現状と思われます。

このような中で、今私たちに求められていることは、県民の福祉そのものに対する関心・理解を高めること、福祉人材の確保のために「福祉の心」(福祉マインド)を育てる福祉教育をより推進するこ

とであると思います。そのためには、現在県内の介護福祉士養成校、介護職員初任者研修実施校、福祉教育推進校等における福祉教育に加え、多くの学校において、教科「福祉」以外の授業、道徳や総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の工夫等により、県内高校における福祉教育の充実を図っていく必要性を感じています。

教科「福祉」は、国民的教養として人々がよりよく生きるための人間教育を根底に置いた教科であり、生徒の福祉マインドを育てる教科でもあるというところに大きな意義があります。今後、福祉とりわけ介護に関する職業に対するイメージアップが図られ、中学生や高校生が就きたい職業の1つとしてあげられるよう、関係機関との連携をより深めていきたいと思っています。本部会がこのような取組の中心となり、県内福祉教育の充実、県内福祉人材の確保及び県民の福祉の充実につながる活動を今後も進めていきたいと思っていますので御協力をよろしくお願い申し上げます。

《参 考》拠点校のイメージ



産業教育フェア

平成26年10月11日（土）、12日（日）の2日間、イオンモール幕張新都心 グランドモール1階グランドコート、グランドスクエアで、千葉県高等学校産業教育フェア・千葉県特別支援ものづくりフェアが開催されました。今年は福祉を含めた工業、農業、水産、家庭、看護、総合、情報のブースに加え、県内の特別支援学校もブースを出しました。どのブースもとても魅力的であり、多くの来場者が足を運んでくれました。



福祉のブースでは、鶴舞桜が丘高校、船橋豊富高校、君津青葉高校、松戸向陽高校の生徒総勢30名が「手作り福祉レクリエーション」、「ハンドマッサージ」を紹介しました。両日合わせて、多くの来場者が体験し、とても盛況でした。

12日午前中のキッズタウンでは、小学生が高校生に「ハンドマッサージ」の技術を教わり、その身に付けた技術をお母さんやお父さんに実施していました。親から「すごく気持ちいい」と言われ、子どもたちはとても喜んでいました。

また、福祉レクリエーションでは、的当てなど実際の高齢者施設で実施しているゲームを来場者に実施し会場を盛り上げていました。



このように今年度の、千葉県高等学校産業教育フェアは、加盟校の御協力があり、無事に終わることができました。来年度以降も、部会で協力し、より良い産業教育フェアを実施していきたいと思います。



福祉人材確保・定着フォーラム

平成26年11月19日（水）の午後から、千葉県福祉人材センター主催の福祉人材確保・定着フォーラム「福祉・介護の力2014」が開催されました。福祉教育部会からは、県立長狭高校、県立船橋豊富高校、県立鶴舞桜が丘高校、県立勝浦若潮高校、木更津総合高校、県立松戸向陽高校の約140名の生徒が参加しました。会場には福祉用具の体験、福祉関係の書籍購入コーナー、福祉系の専門学校・大学の進路相談など様々なブースがありました。今年度は福祉教育部会にブースが提供され、フォーラム開始前や休憩中に、来場者に「ハンドマッサージ」を提供していました。



第1部では吉本興業のお笑い芸人レギュラーが司会を務め、大学・専門学校の先生とともに、「どうして介護が必要な時代なのか？」をテーマにパネルディスカッションが実施されました。司会の方のテンポが良く、パネラーの先生方と会場が一体感を持ちながら、楽しく有意義に進行がされ、会場に来ていた生徒も興味を持って聞いていました。

第2部では、施設で働いている職員の方と専門学校の学生がプロの介護技術について説明しました。間違った方法、正しい方法などロールプレイを交えて、わかりやすく説明をしてくださいました。生徒達は「この方法知ってる。」「そうなんだ。」などと言いながら、真剣に見ていました。



県立学校開放講座

親子で福祉体験（第3日目）が県立松戸向陽高校を会場に開催されました。

前半は、はじめに白杖体験をしてもらいました。アイマスクをつけてもらい、アシスタントの福祉教養科の生徒の介助のもと教室を出発し、廊下、中庭を通って戻ってくるコースで行いました。参加者の多くが「怖かった。」「段差があると歩きづらい」などの感想を持ったようです。この経験がいつか街での声掛けにつながってくれると思います。また、白杖を持たずに、ブラインドウォークも行いました。手探りで歩くことの難しさなどを体験してもらいました。後半は、車いす体験を行いました。校舎の外にカラーコーンを並べ、その間を車いすを使って操作してもらいました。最後のスロープを上るところなどはかなり疲れたようでした。



★ 福祉教育部会研修会 ★

施設実習で活用できるレクリエーション

平成26年12月26日、千葉市にある塚本大ビルを会場に、平成26年度高等学校教育研究会福祉教育部会研修会が開催されました。



開会行事のあと、松戸向陽高校清水弘恵教諭より、次のような報告・連絡がありました。

○平成26年度高等学校産業教育関係教育課程研究協議会 福祉部会

○第2回 千葉県社会福祉法人経営者協議会セミナー

○全国福祉高等学校長会主催「社会福祉・介護福祉検定」

○第16回 福祉教育研修講座

○国立教育政策研究所 教育課程研究センター 関係指定事業研究協議会

続いて、松戸向陽高校鈴木恭太教諭より、平成26年度産業・情報技術等指導者養成研修で行われた、福祉用具や医療的ケアの講習についての報告がありました。

情報交換の場では、「介護職員初任者研修」の話題を中心に、医療的ケアやデュアルシステム



について活発な議論がなされました。

午後からは、千葉県レクリエーション協会の大木潤子様を講師にお招きし、「施設実習で活用できるレクリエーションの実



際」について講演をしていただきました。個人で行うレクから、集団で行うレクまで、様々なレクを実際に全員で体を動かしながら教えていただきました。チーム対抗のレクでは、他のチームに負けないようにと、いつの間にか必死にレクに取り組んでいました。施設で生活している方は、日々不安や自分の不自由さに悔しさを抱えています。が、レクに参加している間は、夢中になって取り組むことが出来るので、そのようなマイナスな気持ちを忘れさせてくれるということを実感していただき、我々教員もそのことを実感することができました。



発行：千葉県高等学校教育研究会福祉教育部会

事務局：千葉県立松戸向陽高等学校

〒270-2223 松戸市秋山682

TEL 047-391-4361 FAX 047-391-8129

